

～福井県ブランド魚の流通改善および認知度向上～
福井県水産バリューチェーン改善協議会（福井県福井市）

背景・課題

福井県の漁獲量は減少傾向であることに加えて、規模の小さな沿岸漁業が9割を占めており、スケールメリットを活かしたシェアの獲得が難しく、他県の生産状況に価格が左右されることが問題となっている。
 また、養殖ブランド魚は安定供給が求められるが、県内の大消費地への活魚定期便がないことから、福井県内でも十分に消費できていないことが課題となっている。

取組のポイント

- 福井県のブランド魚(若狭ぐじ、若狭まはた、敦賀真鯛等)について流通体制の改善と認知度向上
- ブランド魚を新鮮な状態で福井市中央卸売市場に集荷し、安定的に供給できる体制を構築するため、活魚車と活魚水槽を整備
- 生産情報と関連付けた受発注アプリを導入し、流通体制を強化
- 北陸新幹線開業に合わせたプロモーション活動を実施。

取組の成果

商品の見た目や味が評価され、令和5年度の販売量および販売額は目標を達成。令和6年11月時点でも引き続き前年度を上回って推移しており、効果は継続中。北陸新幹線停車駅においてブランド魚のポップアップストアを出店。ブランド魚の認知度が向上。漁業者や魚商関係者向けに受発注アプリ説明会を実施。マーケットインの視点を取り入れた生産、流通体制を構築。

プロジェクトフロー

地元漁業者・市場関係者

福井県の漁獲量は減少傾向。小規模な漁業者が多く、他県の生産状況に価格が左右されやすい。
 福井県内でも消費が鈍い。

福井県のブランド魚について流通体制の改善及び認知度向上

ブランド魚の認知度向上に加え、敦賀真鯛等の販売量増加

協議会

福井県産水産物の流通拡大を図りたいものの、生産状況や流通体制の問題により伸び悩んでいる。

福井県漁業協同組合連合会、行政等が連携し、生産分野においてブランド化に取組み、鮮度や身質にこだわった商品を開発する。

ブランド魚の品質・味が高評価で金額および販売量に関して目標達成。ポップアップストア出店により認知度向上

活魚車



活魚水槽



開発商品

